

民主主義的性性格の教師

倉 橋 惣 三

今日の教育の大本は、一語にあらわせば民主主義であり、民主主義的性性格にしあげることである。幼児教育においては、未だ、民主主義觀念を教育する時期ではないが、性性格の基本の養成を任務とする上から、幼児の生活習慣が常にその

線しそのものでなければならぬ。そうした生活習慣のうちには、感情の動き方も、價值判斷の基準も、従つて日常行動の方向も、民主主義的のものに養われて、幼いなりに非民主主義的の傾向をもたない。進んでは、強固な民主主義的性性格者に築きあげることは、目あてにされなければならぬ。

生活習慣に基く教育であるから、幼稚園生活全體の中に民主主義的なのが充ちていなくてはならない。そのために必要な注意は種々あるのであるが、なんといつても長い非民主主義的社會の中に非民主主義的文化を以て育てられて來たわれわれ教育者に反省を要するものが多からう。理論的に民主主義を理解し、又信念とすることは必ずしも難くはないが、性性格そのもの、殊にその最も基底となつてゐる意識下の傾向につ

いては、是正しなければならぬ點も、補充しなくてはならぬものにも、まだ／＼多くの自己批判を怠つてはなるまい。民主主義的に教育することは熱心に志されても、眞に自己の内にある民主主義で教育し得るものは少ないかも知れない。

二一

民主主義が何んであるかは、方面によつてさまざまに説かれるが、その究極するところは、人間を人間として尊重することである。すべての個人は人間であるから、その意味で個人を尊重する。自分は人間であるから自分を尊重する。他人も人間であるから、他人を尊重するのが民主主義である。それらの人間尊重は、如何なる二次的條件によつても一毫の差別をしない。如何なる外部的壓迫の下にも一分の譲歩をしない。たゞ人間を人間としての親しみに感じて、人間が人間としての貴さにおいて一様に價值判斷し、人間が人間としての自由にあつて行動する。そこに、民主主義の根本が確立するのである。

性性格的民主主義的でありきつてゐるものにとつては、これ

はなんでもない當然である。そうでないのがむづかしいだけのことでもある。しかし、人間を人間として尊重するといふ餘りにも純な人間主義は、實際の生活ではいろ／＼な不純に混ぜあわせられたり、ゆがめられたりし勝ちである。世間の複雑にかき消されるもするし、第一人間の生物的原性にかき亂されるもする。その中でも、社會便宜の上から作り出される優劣高下の區分、本能に根をもつ恐怖と誇示の自然性が、この純粹を純粹にしておかない。實際は必ずしも簡單でないのであるが、民主主義のあるべき姿は、人間が人間として生き、人間を人間として生かすことに外ならない。

三

子ども、殊に幼児たちは、社會的便宜からの非民主主義にも染まり易い。社會的便宜そのものは、彼等の世界には、まだ關心の少ない筈であるが、それで作りあげられているおとなの世界に住む以上、その影響を受けずにはいないでもあろうし、理念的自己統制よりも、彼等の本能の根に近い生活がまたしても、おとなの作つた非民主主義的なものに、そのあらわれ、はげくちを借りて、早くから、人間らしくない自己卑下や、人間らしくない自己暴慢の感情をもち、價值判斷をし、行動に任せたりする。殊に、非民主主義的徳徳に久しく深く強く支配されている社會の教化は、子どもがそうなることを、さまざまの形と規範とで、勧めたり、強いたりする。その點で、先生の非民主主義的性格が、子どもが、正しく民主

主義的に成長するのを、どんなに妨げ害すことであらう。根が原始的なところの多い子どもの生活には、非民主主義になる因子もある。舊い世間の隅々を實に民主主義的ならしめることは、そう早急に完うし難い。その中で、先生が、眞に正しく強く民主主義的性格のもち主であることの他に、今日の教育を實現する可能を確信することはできない。いゝ先生といふことには、幾多の要件が要求せられる。しかし、今日のいゝ先生たるために、その民主主義的性格を一點と雖も缺くことはできないのである。先生の反省を要する所以である。

四

民主主義的性格の先生は、先づ第一に、おのづからに、子どもらに民主主義的に接する。一切の社會的差別觀を示さないのは勿論、心身の優劣に對しても、人間の尊嚴の差別的取扱をしない。愛情をみだりにしないのは素より、幼きに對しても、人間の尊嚴を冒すことを敢てしない。假りにもおだてないが、絶対に輕侮したり無視したりしない。斯くして、幼時から人間の尊嚴において取扱われることによつて、人間の尊嚴の基本性格を養われるのである。

民主主義的性格の先生は、ほかの點でどんな教育價値があつても、非民主主義を肯定し、是認し、禮讚するような傾向のあるお話を語らない。歌詞をうたわせない。遊戯をさせない。その點において、材料の選擇にも、取扱い方にも、殊に先生の態度と幼児の反應にも、嚴密な注意を怠らぬのみで

なく、苟も非民主主義的な點に對して、心から忌むする。舊觀念に憚るところなく排斥する。

民主主義的性格の先生は、幼兒間の生活に對する指導的批判において、非民主主義的なる言語、行動、振舞に對して、決して見落したり見のがしたりしない。友達同志での、いはば、捨ておかれぬ。認めない。わがまは許さない。屈從は認めない。ひくつは恥を感じさせる。自主權の主張は獎勵すると共に、同時に寛容を失わせぬ。自發を重んずると共に、同時に協同を樂しませる。すべてが、自己の尊重と他人の尊重とを矛盾なく實行の間に併立共存させる。

民主主義的性格の先生は——子どもに對して以上の如くであると共に、——自己の自主性を重んずると共に、同僚との協調を破らない。自己の責任を守ると共に、同僚の助言を喜んで受ける。自己の最善を盡すと共に、同僚と競わない。研究は協力の裡に發展させられ、事務は協議の間に進行させられ、常に自らを不満におくことなく、同僚の不満のもととならない。それでも若し自他の間に不満のさざしが起れば、速に解決を圖つて、暗影を止めず、民主主義的明朗を以て明朗の世界を、同僚の間に擴げる。

五

さて、かゝる大切な民主主義的性格を、先生自らに強化するには、どうう用意を以てしたらしくかということは、最も重要な問題でなければならぬ。

そのために、最も深いものを與えるのは、宗教である。宗教こそ、人間文化の最高なるものであるからである。時にそうでない宗教も、世俗にはあるようであるが、たとえば、基督敎にしても佛敎にしても、その敎理の立てられ方に別はあつて、強いることはできない。宗教の信仰によつてこそ、最も眞實のヒューマニティーの基本が與えられることをいうに止める他はないが、之等の眞の宗教について研究し、理解するだけでも、人間の尊嚴の眞意義を、心にたゞえさせる。その意味で、宗教經典、聖者の傳記、信仰の記録を、精讀味讀することは、最も深い意義をもつものである。

次に古來の偉大なるヒューマニストの生涯と事業と、又その著書とは、それが社會事業家であると、宗教家であると、經世家であるとに拘わらず、人間が如何に人間を尊重したかの生きた實際に接せしめるものである。

次に、必ずしも偉大なるヒューマニストといわれる人々に限らず、人間愛と、人間擁護についての短い物語りや地方的傳説にも、ヒューマニスティックな感激と感奮とを促すものが少なくない。英雄的記事といへば、屢々ヒューマニスティックでない事跡の多い中にも、野の人、町の人々の中に、目立たないヒューマニストの物語は、多く發見されるであらう。

次に、文藝小説の中に、人間の尊さを生き／＼と描寫したるものも多い。これにも、非民主主義的な (二六頁つゞく)

子どもらと唄いならされたあの歌唱が、新入園児の新しい聲と共に新しい歌にうたえることである。うまくなり過ぎるほど繰り返えされたあの遊戯が、新入園児の新しいリズムと共に、新しい遊戯におどれることである。口に慣れ切つたあのお話が新入園児の新しい興味と共に、新しいお話に話させることである。なおまた、餘りすら／＼と運ぶ保育は、保育者の心を、おつとりと波もなく流れさせ、よどませるかも知れない。先生の言うことをきかない子、勝手にわめき立てる子、ちよろ／＼とわきへこぼれる子、どろしたのかしく／＼泣く子、だしぬけに大泣きに泣きだす子。大體が幼稚園というところのわきまえがつき、おおよそは先生との契約が成り立つていた三月までの園児と調子がちがう。先生を困らせることも、まごつかせることも、はら／＼させることも、いら／＼させることもさへも度々あるであろう。従つて四月の幼児達は、先生にとつて手なれた幼児達のように、すら／＼とらくにいかないかも知れないが、それだけに、それでこそ、先

生に、新しいほゝえみを興え、新しい愛情を促し、新しい経験を生み、新しい保育活力を盛りあげさせることも、日々先生を新しい心にしてくれる月である。

(四頁より)ものが少くなくないが、その點を注意すれば、文藝の常として、表面から人間の道徳性を書き立てていないが、それでこそ却つて、しみ／＼と人間性のうるわしさを味感させて、ヒュミニスチックな精神の側面的、又潜在的教養を興えられることが稀でない。

次に、最も力強い教養を受けられるのは、幸にして、民主々義的性格の人に接し交り得る機會である。それは必ずしも世に名ある人々と限らない。近隣市井の人にしても、敢て深い教養からでなく、その天性の資質において、そういう人が、却つて多かつたりする。そういう人々こそ、その點において尊敬を拂い、機に觸れ、尊に當り、その小さくとも貴い感化を受くべきである。人格の感化といふことがあるが、道徳的感化よりは、性格的感化こそ、こまやかにしみ通るものであつて、特に人格者といわれない人々の中にも、まことに人間らしい人があり、民主々義者と名乗らない民主々義人もあるものである。

この他にも、有效なる教養の途と機會とは幾多あるであろうが、特に以上の如き方面を擧げたのは、先生に必要なものが、民主主義的性格そのものであつて、民主主義的論議の知識に止まるものでないことを強調せんとしたからである。

性格は性格によつてのみ教育せられる。殊に、幼児の如き、性格とも名のつけられない性格基底に、民主主義、即ち人間尊重の、しつとりした、地底にたゞえたる清水のような教化を興えるものは、先生の性格、殊にその深い基底にたゞえしている民主主義性でなければ出来得ないのである。